

# 競技規則の要点

## 1. 競技場について

- ① 塁間は、16mで実施する。
- ② コーチーズサークルは、設けない。(コーチャーは立てない)

## 2. 用具について

- ① 試合に使用する用具(ボール・バット・バッティンググローブ)は主催者で用意する。(グラブは、各自で用意。金属スパイクは禁止。)
- ② ボールは、ケンコーティーボール11インチゴム製を使用する。
- ③ バットは、SGマーク(製品安全協会認定)製品を使用する。サイズはS・M(小学生用)の二種類とする。

## 3. チーム編成とプレイヤー

- ① プレイヤーは、10人とする。エキストラヒッター(打つだけの選手)は採用しない。
- ② 基本的守備位置については、競技規則等で確認しておく。
- ③ メンバー表の交換は、特に行わない。
- ④ 背番号を必ず着用し、メンバーが確認できるようにする。

## 4. 試合について

### <トーナメント方式で実施>

- ② 試合は、一回戦のみ3イニング(30分)とする。ただし、30分を過ぎた時点で、新しいイニングに入らない。二回戦以降は2イニングで実施する。
- ③ 勝敗が明確になったとき、試合途中で攻撃を省略することもある。
- ④ 試合が終了した時点で同点の場合は、タイブレーカールール(満塁：走者8、9、10番打者、打者3人：1～3番打者)を行う。  
※本ルールで同点の時は、各チーム4人(4～7番打者)で抽選を行い、勝敗を決める。但し、決勝戦・3位決定戦は除く。
- ⑤ 内野の守備位置は、打者がボールを打つまで、内野ゾーンに入ることができない。
- ⑥ 全員(10名)攻撃制で実施。

○両チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代する。  
○残塁の走者は次の回に受け継ぐことができる。(最終回を除く。)  
○1回・2回の最終バッターのとき、フライを打った時やフォースプレーが行われた場合、塁上のランナーはホームインできない。  
○最終回最終バッターのとき、通常のアウトのほか、ボールを保持した守備者が本塁ベースを踏んだ瞬間に試合(イニング)終了とする。

- ⑥ 次の試合のチームは、前の試合が終了するまでに移動や準備を完了しておく。
- ⑦ 試合を円滑に進めるため、フィールディングとボール回しは禁止する。

## 5. 打者(バッター)についての主なルール

- ① 「プレイ」の宣告後、10秒以上経過したとき、ストライク。
- ② 打つときに、軸足を2歩以上動いたとき、ストライク。
- ③ ボールに触れずにバッティングティーを打ったとき、ストライク。
- ④ バントは禁止。バントやプッシュバントと球審が判断したとき、ストライク。  
※ 故意に、スウィングを遅くしたときもストライク。
- ⑤ 2ストライク後、打球がファールボールとなったとき、アウト。
- ⑥ バットを放り投げは禁止する。

## 6. 走者(ランナー)についての主なルール

- ① 離塁は打者が打撃した後とし、違反した場合はアウトになる。
- ② 盗塁は禁止。(タッチアップは認められる。)
- ③ スライディングは禁止、すべての塁で駆け抜けを認める。ただし、進塁の意思があると判断された場合はその限りではない。
- ④ インフィールドフライはなし。

## 7. ボールデッドについて規定

- ① プレイが一段落した段階(守備側の内野手がボールを保持し、攻撃側の走者が進塁の意思を見せずに止まったとき)で、ボールデッドの判断をする。
- ② ボールがファウルラインの外に出た時は基本的にはフリー。ただし、状況により審判が判断することもある。

**内野の守備は、ダイヤモンドより後方に位置する。  
安全確保(怪我防止)のため。打撃が行われたと  
同時に移動可。**

- ※ ルールについては、「公認ティーボール規則」に準じて実施。  
ただし、ティーボールの理念から、状況に応じて特別な配慮をすることもあります。  
その場合は、審判の指示に従ってください。